

平成30年9月27日 教育委員会報告事項についての質疑応答（要旨）

（報告）

ア 平成31年度採用 浜松市立小・中学校教員採用選考試験（第2次）選考結果について

※教職員課長から資料に基づき説明。

（鈴木委員）発達支援推進教員の小中学校の内訳は。

（教職員課長）2次合格者10人のうち、小学校が6人、中学校が4人である。

（渥美委員）教育の根本として、教員の確保は最も重要である。採用にあたって課題や制約があれば、教育委員として働きかけていきたい。

（石田委員）教員の確保については、教職員課だけでなく、教育委員会全体で取り組んでほしい。

（安田委員）養護教員は募集が若干名のところ6名採用となっているが、こういった状況か。

（教職員課長）募集の段階で若干名としていた。採用にあたっての全体的な傾向として、権限移譲により、今まで以上に責任をもって採用活動を行うようになり、講師を減らして正規の教員を増やす形になっている。

（教育長）優れた人材の確保に努めながら、浜松市の多様性を活かした人材育成や、活躍する場の提供に力を入れるとともに、これに応じた教員育成指標を現在作成しているところである。また、学生の段階から、必要かつ適切な人材を育成できるよう、大学と連携できればと考えている。また、多忙化の解消により、子供と向き合う時間の確保や職場環境整備を行うとともに、各年代の教員を通じて、浜松市の良いところを情報発信できるようにしていきたい。

イ 平成30年度全国・東海中学校体育大会結果について

※指導課長から資料に基づき説明。

（石田委員）猛暑の中にも関わらず好成績を収めた生徒の健闘を称えとともに、指導者に感謝したい。部活を励みに日々の生活を頑張っている子供も多いが、ガイドラインなどにより部活動の形は今後どのように変わっていくか。諦めないことや友情、師弟関係など、部活動で学べる良い部分は残してほしいと思う。

（指導課長）何かに打ち込むという経験を得ることがキャリア教育では重要であり、部

活動は意義があると考え。その一方で、部活動ガイドラインをはじめ、子供の体調管理や教員の働き方改革など、部活動を抑制する流れとなっている。好成績を収めた者の中には、今年度部活動指導員となった外部指導者から、部活動指導員制度が導入される前から指導を受けていた例があり、今後制度として広げていきたい。

(渥美委員) 子供たちが部活動を通じて得たことを、その後どのように活かすことができるかが重要である。

(黒柳委員) 公立校から全国大会に出場することは素晴らしい。学校や競技について、偏りがなくとも感心する。文化部の結果はどのようになっているか。

(指導課長) 文化部の結果については、秋から冬にかけてとりまとめを行い、別途報告する予定である。

ウ 平成30年度浜松市立高等学校の部活動の状況について

※市立高等学校から資料に基づき説明。

(石田委員) 活躍した生徒と教員を称えたい。先日、静岡市で県内の高校生が部活の活動時間や活動内容について協議したというニュースを目にしたが、市立高等学校からは参加しているか。

(市立高等学校校長) 本校の生徒が参加したとは聞いていない。

(石田委員) 校内で話し合いができると良い。